2021年度全国代表者連絡会議

情報交換会

令和4年2月6日（日）　リモート開催

開会のあいさつ

小竹 英雄

地域委員会顧問

情報交換会の内容

1　地域委員会の役割について

2　ビジネスクール終了者の報告

3　三重大会の中止に関して

4　今後の地域開催の全国大会の開催地について

5　U-12大会に関して

6　体操男女ジュニアブロック合宿の開催について

7　各ブロック・委員会からの要望に関して

8　質疑応答

1．地域委員会の役割について

令和3年度　地域委員会メンバー　（障）は、障がい者部会員

1	顧問	小竹　英雄	継	JGA顧問（地域担当）（障）
2	委員長	田野辺　満	継	体操強化本部　（障）
3	副委員長	田坂　利明	継	中国ブロック代表　（障）
4	副委員長	橋爪　みすず	新/女性	女子新体操
5	委員	山田　正夫	継	近畿・大阪体操協会会長
6	委員	多田　聡	継	高体連委員長
7	委員	葛西　玲広	継	U-12大会
8	委員	福井　卓也	継	トランポリン委員会
9	委員	慶野　峰晴	継	学生連盟
10	委員	村木　啓造	継	東海ブロック　（障）
11	委員	山田　小太郎	継	男子新体操
12	委員	野田　みき子	新/女性	女子体操審判本部
13	委員	半澤　圭一	継	障がい者部会長
14	委員	半澤　祐介	継	障がい者部会
15	委員	安里　春雄	継	障がい者部会
16	委員	武田　國廣	継	障がい者部会
17	委員	髙田　元気	継	障がい者部会

令和3年度　全国ブロック代表メンバー

1	北海道ブロック	北海道	吉村　佳子	新/女性
2	東北ブロック	秋田	椎名 厚	継
3	関東ブロック	東京	石橋　一彰	新
4	北信越ブロック	福井	石川　秀樹	新
5	東海ブロック	三重	伊藤 清美	新
6	近畿ブロック	和歌山	尾嵜 隆之	継
7	中国ブロック	広島	田坂 利明	継
8	四国ブロック	愛媛	山下　厚順	新
9	九州ブロック	宮崎	図師　正敏	新

＜年に2回程度の合同会議を実施＞

各都道府県、ブロック、加盟団体からの報告、
要望等に関する議論　➡　JGA理事会等に提案

2．ビジネススクール受講者の報告

No.	都道府県	氏名	カナ	年齢	推薦者
1	山形県	五十嵐　直基	ｲｶﾞﾗｼ　ﾅｵｷ	36歳	山形県体操協会　　会長　布川　元
2	大阪府	藤田　上総	ﾌｼﾞﾀ　ｶｽﾞｻ	37歳	近畿体操協会　　会長　山田　正夫
3	和歌山県	岡本　真理	ｵｶﾓﾄ　ﾏﾘ	44歳	近畿体操協会　　会長　山田　正夫

受講者からのコメント

（五十嵐直基）　この度は、ビジネススクールを受講させて頂きありがとうございます。今回学んだ事を、今後の選手育成や指導スタッフの育成に活かし、クラブの発展と山形県のレベルアップに励んでいきたいと思います。

（藤田上総）　本研修を受講させていただき、誠にありがとうございました。今後、様々な業務を進めていく上で、非常に重要となる内容が多く有意義な研修となりました。本研修を活かして、これからの教育活動やその他の業務も含めて実践して参りたいと思います。

（岡本真理）　自分自身を見直すいい機会になったとともに、新たな学びもたくさんあり大変勉強になりました。今回このような貴重な経験をさせていただき、心より感謝申し上げます。この経験が、クラブ運営、また協会の仕事に携わる上で、しっかりと活きるように今後も努力していきたいと思います。ありがとうございました。。

3．　三重国体の中止に伴う出場枠の変更

2021年以降の国民体育大会及び国民スポーツ大会の流れ

区分	回	西暦	和暦	開催地	実施状況	新体操女子隔年枠		前年度成績枠	備考
						3枠	2枠		
国体	第74回	2019	令和1	茨　城	終　了	中 国 B	北信越B	福井大会	
	第75回	2020	令和2	鹿児島	延　期	北信越B	中 国 B	茨城大会	
						↓	↓	↓	
	第76回	**2021**	**令和3**	**三　重**	**中 止**	**北信越B**	**中 国 B**	**茨城大会**	
						↓	↓	↓	
	第77回	**2022**	**令和4**	**栃　木**	**実施予定**	**北信越B**	**中 国 B**	**茨城大会**	
	特別大会	2023	令和5	鹿児島	実施予定	中 国 B	北信越B	栃木大会	
国スポ大会	第78回	2024	令和6	佐　賀	実施予定	＊男子新体操復活、最新出場枠を適用			
	第79回	2025	令和7	滋　賀	内　定				
	第80回	2026	令和8	青　森	内　定				
	第81回	2027	令和9	宮　崎	申請済				
	第82回	2028	令和10	長　野	申請済				
	第83回	2029	令和11	群　馬	申請済				
	第84回	2030	令和12	島　根	申請済				
	第85回	2031	令和13	（奈良）	申請待ち				
	第86回	2032	令和14	（山梨）	申請待ち				
	第87回	2033	令和15	（沖縄）	申請待ち				
	第88回	2034	令和16	鳥　取	申請済				

４．今後の地域開催の全国大会の開催地について

【体操競技】

大会名	全国高校選抜	全国高校インターハイ	全国中学校	全日本学生インカレ	全日本シニア	国民体育大会	全国小学生U-12
開催時期	3月（前年度）	7～8月	8月	8月	9月	9～10月	11月
2021年（令和3年）	北海道 札幌市	新潟県 上越市	神奈川県 藤沢市	静岡県 静岡市	山形県 酒田市	三重県 四日市市	佐賀県 佐賀市
2022年（令和4年）	熊本県 熊本市	愛媛県 松山市	宮城県 仙台市	三重県 四日市市	東京都 立川市	栃木県 宇都宮市	広島県 広島市
2023年（令和5年）	三重県	北海道 札幌市	四国 ブロック	長野県 長野市		鹿児島県 鹿児島市	青森県 弘前市
2024年（令和6年）	埼玉県	北部九州 福岡市	北信越 ブロック	鹿児島県 鹿児島市		佐賀県 佐賀市	静岡県 静岡市
2025年（令和7年）		中国ブロック		青森県 弘前市		滋賀県 大津市	群馬県 高崎市
2026年（令和8年）		近畿ブロック				青森県 弘前市	

【新体操】

大会名	全国高校選抜	全国高校 インターハイ	全国中学校	全日本学生 インカレ	国民体育大会
開催時期	3月 （前年度）	7～8月	8月	8月	9～10月
2021年 （令和3年）	北海道 札幌市	新潟県 新潟市	東京 八王子	静岡県 静岡市	三重県 四日市市
2022年 （令和4年）	熊本県 熊本市	香川県 高松市	岩手県 北上市	宮城県 白石市	栃木県 小山市
2023年 （令和5年）	静岡県 静岡市	北海道			鹿児島県 鹿児島市
2024年 （令和6年）		北部九州			佐賀県 佐賀市
2025年 （令和7年）		中国ブロック			滋賀県 大津市
2026年 （令和8年）		近畿ブロック			青森県 弘前市

【新体操】

大会名	全国高校 インターハイ	全日本 年齢別	全日本学生 インカレ	全日本 ジュニア	国民体育大会	全日本選手権
開催時期	7～8月	5月	8月	7月	9～10月	10～11月
2021年 （令和3年）	熊本県 熊本市	群馬県 前橋市	新潟県 上越市	福島県	三重県 四日市市 （中止）	大阪府 熊取町
2022年 （令和4年）	石川県 金沢市	群馬県 前橋市	広島県 福山市	大阪府 熊取町	栃木県 茂木町	鹿児島県
2023年 （令和5年）	＊＊＊	群馬県 前橋市	＊＊＊	＊＊＊	鹿児島県 鹿児島市	＊＊＊
2024年 （令和6年）	＊＊＊	群馬県 前橋市	＊＊＊	＊＊＊	佐賀県 佐賀市	＊＊＊
2025年 （令和7年）	＊＊＊	群馬県 前橋市	＊＊＊	＊＊＊	滋賀県 大津市	＊＊＊
2026年 （令和8年）	＊＊＊	群馬県 前橋市	＊＊＊	＊＊＊	青森県 弘前市	＊＊＊

5． 全国ブロック選抜体操競技大会（U-12）大会

【第17回全国ブロック選抜U-12体操競技選手権大会要項（抜粋）】

期　　日　2022年11月19日（土）～20日（日）

会　　場　広島市　広島県総合体育館

参加申込　① 第1次エントリー〆切：　9月　22日（木）正午　必着
➡ブロック参加枠に枠に欠員が生じた場合、再配分する。

② 第2次エントリー〆切：　10月　21日（金）正午　必着

③ 予備登録繰り上がり〆切：11月　04日（金）　正午
➡原則〆切以降の繰り上げはしない　（2020年鯖江大会より適用されています）

実施要項は特に昨年からの変更点はありません

本年度の選手登録に関して、各県に割り当てられた出場選手枠より1名多い選手の選考を行ったという報告がありました。
本件に関する再発防止として、各ブロック・都道府県での実施要項の確認等、お願い申しあげます。

６．体操男女ブロック強化合宿に開催について

男子体操強化本部、女子体操強化本部、コーチ育成委員会、地域委員会の合同事業として実施されます

ジュニアナショナル選手が各地域の有望な選手と合同合宿を行うことにより、地域への各種情報提供、指導方法の伝達、強化指針の共有、選手・指導者の意識向上など、多くの効果が期待できます。
この合宿を通じて全国的な強化体制を構築していきたいと思います。

日　程	令和4年4月～令和7年3月までの3か年　（毎年、男女別に各3回程度を予定）
会　場	各ブロックでの会場地は地域委員会が調整する　　※前回の会場地
人　数	各合宿で、選手・指導者・役員で30名～50名程度で調整（新型コロナ感染状況に配慮）
参加者	Ⓐ　ジュニアナショナル強化選手　（男子はU－18＆U－15、女子はU－15） Ⓑ　ジュニアナショナル強化スタッフ
	Ⓒ　各ブロックから選出された選手、帯同コーチ　（JGA登録者） Ⓓ　各ブロックから選出された指導者　（公認コーチ資格保有者）
費　用	ⒶⒷ　JOC強化事業のため助成金対象 ⒸⒹ　旅費・宿泊費は参加者負担（都道府県の強化費などを利用） ※公認コーチ義務研修対象者のみ3000円の参加費を徴収する
内　容	・柔軟性、基本技術　　・トレーニング方法　・コンディショニング　・採点ルール　他
その他	・日本スポーツ協会公認コーチの義務研修を兼ねる

※平成26年～30年に男子ジュニアが実施したブロック合宿地

北海道ブロック➡北翔大学（札幌）
東北ブロック➡仙台大学（宮城）
関東ブロック➡順天堂大学（千葉）
東海ブロック➡静岡産業大学
北信越ブロック
　➡上越市大潟体操アリーナ（新潟）
近畿ブロック➡清風高校（大阪）
中国ブロック➡関西高校（岡山）
四国ブロック➡徳島市体操センター
九州ブロック➡佐賀県総合体育館

７．地域委員会、ブロック代表合同会議での検討事項

【第１回地域委員会・ブロック代表との合同会議】
日　時　令和３年１１月１３日（土）　１６：３０～１９：３０
会　場　佐賀県青年会館　　（U-12大会　会期中に開催）

この第1回会議で議論した内容を、各ブロック・各委員会に持ち帰ってアンケート集約等をしました。

本来は、昨日に第2回会議を開催予定でしたが中止となったため、下記検討の内容等に関して、この場にて情報共有したいと思います。

次回の会議（４月頃予定）にて、この内容に関して議論していきたいと思いますので、各ブロック代表を通して、皆様のご意見を頂ければと思います。

１　ブロック国体が開催されなかった場合の本国体出場資格の取り決め
２　U―15大会の開催について
３　U―12大会の予選会、選考について
４　U―12大会の予選会競技規則（ルール）について
５　トランポリンの地域での普及状況、今後の対策について
６　令和4年度、障がい者部会の活動の方向性について

1　ブロック国体が開催されなかった場合の本国体出場資格の取り決めについて

・ビデオ採点や前年度過去の成績を参考にする案

・選手決定の手順を定めていない

・高体連ブロック大会や中体連大会の成績をもとにして決定する案

・ビデオ採点の意見が多いですが、まだ決定はされていません

・ビデオによる採点方法も考慮した。少年に関しては高体連ブロック大会の成績を参考にする案

・ビデオ採点の場合、種目を統一する作業をどうするか？などの問題点もあった

・新体操は一つの学校に集めて採点する方向で決定していた。

・大会の成績及び、高体連ブロック大会、東西インカレ等の成績をもとに選考していくしかない。

・過去の戦績・現状等を把握し，ブロック協会の理事会で協議・判断する。

・フリー抽選が第一案である。ビデオ採点にしても、そもそも練習が行えない、施設に入れない状況もある。

2　U-15大会開催の必要性について

・U-12と同じ方向性で、年齢が上がるだけのU－15大会の開催なのか。全国中学校大会に代わる大会なのか。U－15大会の参加資格や条件などが少し見えれば、開催についての意見がいろいろと提案されると思います。

・ブロック予選会が増えて厳しいものがある。中体連の方向性や全日本ジュニアの出場枠の検討等、それらを見ながら大会の開催が必要かどうか検討する。

・中学生の発育発達特性を考えると、怪我の心配がある。怪我の内容についても、関節等への影響など将来に関わる怪我に繋がり兼ねない。学校クラブとのすり合わせが不十分と考える。

・6種目での全国大会が全日本ジュニアしかないので6種目の大会が増えることは賛成だが、開催時期を考えなければならない。

・ブロックジュニア大会で中学生も出場しますので予選会は開催できる。中体連との関わりや大会の過密日程など問題点は多いかと思いますが、開催希望の県もあると考えます。

・中体連の動きが気になるが、将来的には必要である。世界的に考えても6種目対応にしていく必要がある。

・多くが民間クラブでの活動となっているので、学校対抗ではなくクラブ対抗や都道府県選抜チームなどでの開催が、今後は必要だと考える。また、男子6種目、女子4種目での実施でなければ、今後世界と戦うことはできなくなると考える。

・開催時期，種目数や規定演技・自由演技などの競技内容，選手の身体の発達段階等を考慮しないと，選手に負担をかけてしまう大会では，選手強化の意味をなさないと思います。

・開催できるのであれば開催した方が良い。しかし、全国中学がなくなるとか、それに変わるものといった考え方で始めるのであればあまり賛成できない。ブロック内では中学校の教員が激減しているため、中体連を大事にして行かなければ、協会運営もなりたたず、部活動に頼っている地方の大会運営は成り立たなくなると感じている。

3　U―12大会のブロック予選会はどのように実施されているか

・ブロック大会の小学生の部を、U-12大会の選考会を兼ねて開催。この大会の小学生の参加条件は、U-12大会のルールに対応できる者と位置づけをしている。

・ブロック予選会の開催場所は各県の持ち回り。選手選考は成績順に選出。

・東日本･全日本ジュニアの競技結果や、都道府県大会の順位を元にブロック協会が序列を作成し、承認を経て決定。

・毎年、９月下旬か10月上旬にブロックジュニア大会を開催している。（U-12、U-15、U-18）この大会で選手選考を行っている。

・毎年８月開催のブロックジュニア大会の順位により出場者を決定している。

・ブロックジュニア大会を９月に実施、A，B，Cクラスに分けて開催。

・ブロックで予選会を実施することが必要だと思うが、現状では予選会を実施する日程がとれていない。予選を行い、上位4位＋各県一枠の9名の選出が良いと考える。予選会に出場しない県や参加を希望しない県があった場合は、各県一枠は増やさず、予選上位枠を増やして選出する。

・今年度はコロナの影響でブロック予選を中止。各県に割振られた上位2名または3名の参加の意向を、各県単位で確認した。また、参加者0である県があったため、他県に出場枠を配分した。

・夏に行われている、ブロック小学生大会の成績で選考を行っている。①ブロック大会上位枠　②各県枠（各県1名）

4　U―12大会のブロック予選会ルールについて

・ブロック予選会はU－12大会のルールで開催しているブロックが多い

・身体に負担が少ない技(禁止技)の選定を盛り込んだルール作りをして頂きたい。
　ジュニア向けの器具が開発･普及されればよいが、時間的にも経済的にも障壁が高いと考える。

・男子は、U－12ルール　＋　あん馬は特別ルール（旋回10回の規定）　➡　来年度よりあん馬も自由演技の予定。
　女子はU－12のルールを採用　＋　特別ルール（D難度に上限設定）➡　来年度は特別ルールを廃止予定。

・男女とも、出場者はブロック枠を下回っているのが現状　➡　競技規則に競技力が届かない選手が多いため

・男子は、以前はあん馬を円馬で競技していた　➡　現在はあん馬で実施している
　女子は、U-12ルール　＋　　特別ルール
　＜特別ルール＞
　１　跳馬の台上前転，開脚とび，閉脚とびを実施した場合　＝　Dスコア　1.00　　Eスコア　7.00より減点。
　２　跳馬の高さを変更した場合＝最終得点より2.00の減点とする　➡　現状は、高さを変える選手はいない

・特別ルールを採用している。(簡易な技の何度認定=普及目的の特別ルール)

5 トランポリンの今後の普及対策について　トランポリン委員長　福井卓也

これまでは国体開催に向けた普及活動として、未普及県に対する「普及スタッフの配置」を行いました。
しかし、現状として今後も普及活動が継続的に必要であるため、下記の対策を実施していきたい

【2022年度】
未普及県（佐賀・長崎・山口・島根・徳島・和歌山・岐阜・山梨・栃木・岩手）へ訪問し、トランポリン選手・指導者の育成について、県体操協会に協力をお願いし、連携を深める。
連絡窓口を明確にして、練習環境と指導者の可能性を探り、普及に必要な項目をまとめる。随時普及活動を行う。

【2023年度】
未普及県のトランポリン競技選手の登録者1名以上を目標に、年1回以上のトランポリン研修会及び練習会を開催する。随時普及活動を行う。

【2024年度】
未普及県のトランポリン指導者の日本スポーツ協会公認コーチ取得を推進する。
47都道府県の選手・指導者登録の完了を目指す。随時普及活動を行う。

＜普及スタッフ＞
福井卓也（全国）、河村和浩（九州）、長澤伸也（中国）、後藤雅美（東海）、大﨑義長（四国）、菊池一智（東北）、伊藤勇木（関東）を中心に普及を推進する。随時進捗状況を確認し、支援の効率化をはかる。

６　障がい者体操の普及に関して

障がい者部会が立ち上がり４年が経とうとしている。これまでの取組みは、「障がい者スポーツに関するアンケート調査」を行ったことが唯一の活動であるが、アンケート結果は大きな反応があった。多くの団体や個人が障がい児に関する取り組みについて非常に高い関心を示していると思われる。

【目的】
障がい者部会が発足した当初の大きな目標は、全国規模の「障がい者体操競技大会」を開催することにあった。しかしながら、障がい者（児）が体操競技に取り組んでいる都道府県や関係団体は北海道地区を除き多いとは言えないのが現状。
普及を妨げている要因として、ハンデを持つ人へ体操競技を教えることは他のスポーツ団体よりも人も時間もお金もかかるという事が考えらる。しかし、この問題を解決しなければ障がい者（児）への体操競技の普及は難しい。その解決策を今後の障がい者部会の大きなテーマ（目標）として取り組んでいく。

【事業】
普及活動と指導者の育成、更には保護者の理解が欠かせないものと考える。これについては、色々な取り組みが考えられるが、以下の３事業について検討してみたい。

１、障がい児の体操教室
２、特別養護学校等、障がい児を支援している学校での部活動
３、福祉サービス事業の一環として障がい者（児）スポーツに取り組む

7　その他、今後の検討事項

・男子新体操の普及活動（無普及県への普及など）について　（男子新体操委員会より）

・男子体操ジュニアサイズの器具（あん馬のポメル）について（ブロックからの要望）

次回の地域委員会・ブロック代表合同会議
4月～5月に東京にて開催予定！